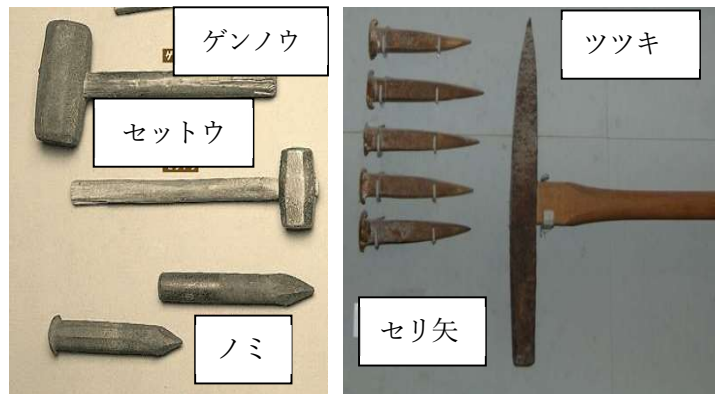


「福光石石切り場と福光石」の価値

⇒人々が利用する公共施設や民間建築に使用され、今でも全国の重要文化財保護を支えています。

福光石とは？

- ・1500～1600 万年前に日本列島が大陸から分かれ始めた頃の海底火山の噴出物が堆積して固結した岩石です。岩山内部には熱水が通った隙間が見られる場所もあります。
(福光石岩質：安山岩質火山礫凝灰岩、ゼオライトを含まない)



福光石の歴史

- ・福光石の歴史は、室町時代(1336～1573 年)からツツキ(ツルハシ、コツキとも言う)、ゲンノウ、セットウ、ノミを使い、必要な寸法が取れる大ききで周囲に溝を掘り、溝の隙間にセリ矢を打ち込むことで、溝の底にひびを入れ、岩の塊をはぎ取る方法での手掘りが始まりました。(岩肌に残る筋模様はツツキやノミによる削り跡)
- ・安土桃山時代(戦国時代)になると「福光石」の採掘加工技術の向上を図るために、戦国武将「不言城主吉川経安(きつかわつねやす)」が大阪より石工棟梁「坪内弥惣兵衛(つぼうちやそべえ、坪内家の先祖)」を招き入れたことで歴史が始まりました。
- ・石山の岩肌を観察すると幅2～3m ほどの間隔で、深さ(奥行)の違いが明確な切出し跡が見られますが、当時の石工一人一人の持ち分であり、腕前や知恵などを競いあっていたことが分かります。
- ・2007 年に登録された世界遺産「石見銀山」の「五百羅漢像」はすべて福光石です。
「五百羅漢像」は、坪内平七(坪内家の先祖) 一門の手によって二十余年間の歳月をかけて明和3 年(1766 年)に完成したものです。その他、今も当時の採掘坑道である間歩(まぶ)や銀により栄えた大森の町並み保存地区と銀山柵内(ぎんざんさくのうち)で確認された灯籠、狛犬、水鉢、墓石などの石造物は約 11,000 基にもものぼり、その大半が福光石です。
- ・「福光石」は、江戸時代から全国で使われていたことが分かっています。その輸送方法は、鞆ヶ浦(ともがうら)や温泉津湊(ゆのつみなと)から北前船で銀と共に全国へ日本海回り(北海道～北陸～大阪)で輸送されていました。
※北前船(千石船：せんごくぶね：米 1000 石(150 トン)を積める能力)：江戸時代～明治3 0 年代まで商品を売り買いしながら各地を結んでいた商船群のこと。
※北前船係留場所：温泉津湊(ゆのつみなと)と称して温泉津(ゆのつ)と沖泊(おきどまり)に係留していました。
- ・昭和の初めまで坪内家、山中家、重田家の一族が切出し・加工・販売を独占していました。当時、十数カ所あった切出し場は、現在では坪内家の石山のみとなりました。
- ・昭和30 年代より「福光石」に代わるセメントの出現や御影石の加工技術の向上、石工の高齢化と後継者不足、安価な外国産石材の輸入激増により、需要が途絶えてしまいました。
- ・明治、大正時代まで4 0 数名の石工が働いていましたが、昭和に1 5 名ほどに減少、現在2～4 名(臨時含む)で歴史をつないでいます。
- ・昭和4 0 年頃には、機械による垣根掘り(横方向)、平場掘り(縦方向)に進化し、現在の四角い横穴(幅5.7m×縦3.4m)と縦穴(幅5.7m×長さ5.7m～11.0m×深さ15m程度)になりました。超鋼チップの付いたチェーン刃をモーターで回転させて岩を切るため、切出す人数も少なくても良く、体力も時間もあまり掛けずに能率よく切出すことができます。
- ・機械掘りになる前は、石工達が横に並び(1 人当たり幅2～3m) 幅広く岩を削りやすい角度で山の芯に向け、質の良い石を求めて斜め下の方に掘り進んだがために、オーバーハング(突き出した)状態となり、大きな2,000～

7,000 トンもの突起した岩を支えきれずに岩が剥がれ落ち、石山の表側に点在するのが何カ所か見られます。下にある大きな岩の凸凹した表面の形状を観察すると上方の岩肌と一致する場所を見つける事ができるでしょう。現在は、オーバーハング部を含めた山の形状、状態などを把握し、安全を確保するための計算に基づき切出しの寸法や残さなければならない場所や基準・制限を守りながら、切出しを行っています。

地域にとっての「福光石」とは？

- ・「福光石」は、室町時代から地域の人々の働き場であり、生活の支えとなってきました。
- ・なのに！？…「福光石」は、石見地方・福光地区のほんの一部の人しか知りませんでした。

⇒なぜか！？…「五百羅漢」は明和3年（1766年）に完成しました。

人々の目は石見銀山・大森銀山に魅かれていました。

明治・大正時代に働いていた石山所有者は、石山(山の上)に家を建て生活していたり、石山近隣のふもとの人達が農繁期以外の生活の糧として働いていたので、あまり平地の人に知られていませんでした。

時代と共に石工が減るとともに、人々の出入りが減り、石山を知る人も減少したためです。

石山が県道からも国道からも見えない所にあり、石山への入口も分かりにくいからです。

「福光石」の宣伝をしていなかったことが原因です。

- ・現在の「当時は世界の3分の1の銀産出量の中のかなりの量を支えた「石見銀山」と戦国時代の「不言城」の歴史に大きく関わる「福光石」は、これからも地域として大事にしていくべき宝です。
- ・世界遺産の石見銀山「五百羅漢」は「福光石」で出来ています。
- ・日本遺産「石見の火山が伝える悠久の歴史～縄文の森”銀（しろがね）の山”と出逢える旅へ～」の構成文化財「①福光石の石切場の手掘り跡」であり、価値のある石材です。
- ・江戸時代から北前船で全国に運ばれた歴史的な石です。
- ・現在も全国の歴史上、芸術上、学術上価値の高い有形文化財（日本の国宝・重要文化財）の神社仏閣の修復工事などに「福光石」が使用され、無くてはならない石材として役立っています。
- ・現在も福光石の製品は、墓石、灯籠、鳥居、地藏尊などの石仏、狛犬、水鉢、石碑、玉垣、土台石、石臼、門柱、石塀、張石等の内外製材として、需要文化財、公共施設や一般の家などに広く利用されています。
- ・温泉津温泉、有福温泉をはじめとして、玉造温泉、皆生温泉、有馬温泉など島根県内の温泉宿や全国の温泉宿やリゾートホテルにも沢山使われています。身近な場所に使われていても、「福光石」の名称もどんな石かも知られていないために、見過ごされていることが多いでしょう。
- ・中でも皆さんが気付かずに何気なく「福光石」に接しているのは、全国的に「シロイルカのバブルリング」で有名な「しまね海洋館アクアス」の外側全部の壁に「福光石」が使われています。気付いていましたか？
- ・「福光石」には特質があり、人体に有害な「硫化水素」「アンモニア」「トリメチルアミン」などのガス吸着性能もあります。また、調湿性もあることから「消臭乾燥剤」として販売しています。冷蔵庫や下駄箱の中などの臭いは、何年たっても消し去ります。床や壁に使えば、濡れても滑らず、消臭乾燥もする心地よい空間になります。その他、断熱性や吸音性に優れ、遠赤外線放射効果もあることで知られています。
- ・水槽の水も浄化しますので、水換え回数が減少します。
- ・大森町ではドイツで修行し、国家資格「ドイツ製パンマイスター」を取得したご主人と「ドイツ製菓マイスター」を取得した奥さんが経営する「ベッカライコンディントライヒダカ」のシュトーレン生地熟成場所として、「福光石採石場坑内」が使用されています。理由は坑内の気温が約14度で安定しているからです。
- ・今は、一般社団法人日本石材産業協会にも加盟し、日本の銘石として認定して頂いています。
- ・縁起の良い石で、《あなたに福と光を招く！滑らない「福光石」》というキャッチフレーズで、今では全国的にも有名な石材となってきました。

★「福光石」は、大田市、温泉津町、福光の歴史的宝です。今後ともよろしく願いいたします。